

ゆめ通信

地域づくり考房 

{ Vol.052 }
2023 9.30

特集 ONE TEAM プロジェクト

学生プロジェクト活動紹介(YUME column) / 第10回デパートゆにとつ / 石芝祭り



地域づくり考房「ゆめ」
キャラクター こう坊

考房『ゆめ』は松本大学の
全学生を対象に、学生と地
域住民とのふれあいを大切
にして取り組む地域連携活
動の支援を行っています。

ごあいさつ

地域づくり考房『ゆめ』の活動は多くの夢があり、大学にとっ
ても地域にとっても本当に素晴らしい活動です。

特に茶房「ひといき」は、松本大学の学生や地域のお年寄
りが集い、様々なアイスブレイキング活動、音楽、伝統的な踊り、
「けん玉」や「すごろく」などの伝統的な遊び、世代を超えた会話、歴史的な話、生演奏などを、
淹れたてのおいしいコーヒー、紅茶、お菓子と共に楽しむことができる素晴らしい場所です。

私自身、このような活動やイベントに多く参加する機会に恵まれています。地元新村地域の多
くの素晴らしい方々と知り合うことができ、本当に楽しかったです。思いやりがあり、とても親切
な皆さまから、新村と日本について多くのことを学びました。今回も多くの情報満載の「ゆめ通
信 52号」をどうぞご覧ください。

『ゆめ』運営委員 マーメット・ショーン



学校法人松高学園
松本大学

ワン チーム ONE TEAM プロジェクト

概要

地域づくり考房『ゆめ』では、学生の地域活動の「第一歩」として、「ONE TEAMプロジェクト」を企画しています。地域に生きる人々の想いを知ることを目的に、様々なテーマのもと活動しています。今号では、5月～8月に行った活動を紹介します。



5月「地域ビジネスに活かす農業」

5

5月20日(土)に松本市四賀地区の田んぼへ赴き、恒例のもち米の田植えを実施しました。昨年は雨の中での作業でしたが、今回は絶好の晴天に恵まれました。最初に毎年お世話になっている地元四賀地区の佐々木清夫氏から田植えのコツを教わり、その後3班に分かれて行いました。初めて田植えを経験する学生がほとんどで、田んぼの泥に悪戦苦闘しながら

も、食べ物の大切さを実感しながらひとつひとつ愛情をこめて丁寧に作業を行いました。学生も、小さな苗が4か月後に大きな稲穂として成長する姿を今から楽しみにしている様子でした。午後は、佐々木清夫氏と株式会社まくらや社長の藤本孝介氏より、四賀地区の農業の歴史や現状、また今後の農業の展望について等のお話を頂戴し知識を深めました。なお、稲刈りは9月23日(土)に晴天のもと実施しました。改めて、小さな苗がこんなに大きく成長したことに感慨深いものがありました。



学生の感想



実家でもお米を手作りしていますが、機械を使って田植えをするので、1つ1つ手で田植えをしたのは小学生以来で懐かしい気持ちになりました。棚田を守る思いを身近な人・地域の人と繋いでいくことが重要だと学びました。(観光4年 深井)

6月「善光寺バスハイク」

誰

誰もが一度は参拝したことのある善光寺ですが、ONETEAMで見る風景は新鮮で学ぶことが多く、地域の皆様・学生と食べた宿坊での精進料理は、1400年の歴史を感じる奥深い味わいがありました。信濃の国司の従者として都を訪れた本田善光



が飯田市を經由して運んだことを語る記念館を訪れ「善光寺」の名前の由来を学び、7年に1回の回向柱が境内の片隅に埋められ、年と共に短くなっていく姿を見て善光寺如来前立観音様との終わらない結びつきを感じさせる一瞬でした。地域の皆さんと学生は、煩惱を戒め、より深い繋がりを生み、誠実で感謝の気持ちを生みながら長野県立美術館で芸術に触れる旅となりました。

学生の感想



善光寺参詣や精進料理、県立美術館訪問など活動から得られる充実感だけでなく、地域の方との何気ない会話やショー先生とのコミュニケーションなど人との関わりから充実感を得られることができました。(総経1年 小林)

7月 「地域の農業資源を知る」 ～朝日村の農業資源を探る新たな活動～

松

松本平の南部に広がる朝日村。昨年以來、朝日村の方々
は、ウクライナとの交流を進めながら、ビーツを活用したポ
ルシチ料理の商品化に努力されています。そこで学生の中から、ポルシ
チの商品化に向けて何か協力ができないだろうかという声が上がりました。
7月15日の「ONETEAMプロジェクト」では、「地域の農業資源を知
ろう～朝日村の農産物を食べよう～」というテーマのもと、ポルシチプロ
ジェクトの取材を兼ねて朝日村のフィールドワークを行いました。当日は、
「ゆにまる」に所属する学生を中心に9名の学生が朝日村を訪問しました。



まずJA朝日支所野菜集荷場を見学し、朝日村が生産する多くの野菜の
集荷状況とその生産実態を
学びました。また朝日村の重
要施設である東京電力変電
所では、西日本と東日本の電
力変換を目の当たりにし、電
力インフラの重要性を知ること
ができました。その後、広大
な野菜畑の中でビーツの収
穫を行いました。多くの学
生が初めての体験に感動し



ていました。午後はポルシチを試食し、ビーツを活用したポルシチプロ
ジェクトの実情を取材することができました。朝日村の新たな取り組みの
発信やサポートに、今後どのように取り組むか、学生たちは次のステップ
に向けて歩みだそうとしています。

学生の感想



今回は野菜でしたが、朝日村には様々な魅
力があることを知ることができました。朝日村
の人達とお話をする中で、住民の人達が自ら行
動を起こしている姿をみて朝日村の強さを感じ
ました。
(観光4年 本山)

8月 「平和教育親子バスハイク」



大

太平洋戦争末期1944年11
月敗色濃厚の中、本国決戦に備
えて「大本営」を長野市の松代町に建設を始
めたそうです。朝鮮人(韓国人)に強制労働
をさせて幾つかの山の下に政府機関を含めた



大本営を掘らせたという噂が本当か、もしも戦争が続いていたら天皇陛下は
こちらに移られていたのか。親子と学生が学ぶ平和教育となりました。大学生
13人、親子1組の参加でしたが、学生のリーダーは、事前に地元の高校の先生
(長野俊英の海野修先生)と同校郷土班の生徒から学習し、平和について皆で
考えるよい機会となりました。海野先生の話では、日本人も共に、給料を貰い
ながら働いたのではないかとお聞きし、学生のイメージは変わったように感じ
ました。そのあと、幕末の佐久間象山記念館、文武学校、歴史館と見学し、最後
は茶臼山の動物園を見て歴史と平和の旅を終える事になりました。

小学生 小山新太君の感想

松代大本営には初めて行きました。大学生の説明やクイズが
あって分かりやすかったです。夏だけど中はとても暑くして
気持ち良かったです。真田家は教科書で見た事しかないような昔
の家を見られて楽しかったです。大学生と先生と一緒について
くれてよかったです。動物園は、時間がたくさんあって、見たい
動物を何回も見られて良かったです。また、アルプスタウンなど
も企画してほしいです。僕は中学生になってしまうので、中学生
向けの企画してほしいです。

お母さん 小山みずほさんより

学生さんの説明もあり、私も初めて見聞きすることが多く勉
強になりました。準備や事前学習お疲れさまでした。

学生の感想



松代大本営では、大学生の先輩方が詳
しく教えて下さり昔行ったことのあった私
でも改めて色々知ることが出来ました。全
部行ったことのある場所でしたが違う人達
と一緒に行動することで感じる楽しさが
違うなと思いました。(短大1年 山本)



学生プロジェクト活動紹介

「すすはなプロジェクト」 花火大会までの道のり



すすはなプロジェクトでは、すすき川花火大会に向けて今年度はより幅広い活動ができました。すすき川周辺の散策や、富士電機様の工場見学、ラジオドラマ制作、うちわの作成及び駅前での配布、花火大会のチラシ・ポスターのデザイン構成等、1年生が大勢加入したこともあり分担して進められました。毎週打合せを開きメンバーが顔を合わせていた

のも、仲が深まるきっかけとなったように思います。また、メンバーの一人が「すすはなプロジェクト」のロゴをデザインし、缶バッジを製作しました。活動の中で身に着けることで一体感もありました。ロゴはチラシやSNSのアイコンにも使用しており、これからも様々な場面で活用できそうです。

当日はWEB配信の進行を学生が担当し、堂々とした姿や聞き取りやすい話し方に、富士電機のご担当者様からも感動したとお言葉をいただきました。現地で観た花火も大変素晴らしく、学生にとっても良い思い出になったようです。



学生の感想



20名以上の賑やかで楽しい新メンバーを迎え、久々の有観客開催、松本駅での広報活動等々、コロナ禍で昨年まで制限されていた活動も本格的に再開出来ました。

当日の司会を務めながら見た花火は今まで一番感動しました！

何より、また来年もよろしくね！と事務局の方に言って頂けた事がとても嬉しかったです。 (観光3年 登内)



障がいや手話についての知識を深める ～Sign～ ☆☆

Signプロジェクトの活動は前期期間中、「手話学習会」と「障がいについての知識を深める学習会(以下、障がい学習会)」の2つの勉強会を精力的に実施しました。「手話学習会」は、短期大学部非常勤講師の武居みさ氏を講師に招き3回、「障がい学習会」は教職支援室の矢野口仁氏を講師に招き2回行いました。手話学習会では、自己紹介や簡単な会話をしながら手話を通して自己表現を楽しんでいました。手話の動作ひとつひとつにも大きな意味があるなど、手話の極意を存分に堪能しました。障がい学習会では、障がいに対する基礎的な知識や専門用語の理解、また障がいの度合いによつての接し方の知識等、様々なことを学びました。共に新しい発見に満ち溢れ、充実した時間となりました。参加した学生も、「障がい者に常に寄り添う気持ちを忘れずにいたい」と決意を新たにしていました。



学生の感想



今年度は1ヶ月に1回手話学習会を開催することができました。手話は指文字以外に普段行っている動作や見ている物の連想ゲームのように会話をするのが分かりました。

また、障害について学ぶ会では障害全般についてや、特定の分野について学ぶことができました。障害についての知識を深めることができて良かったです。 (観光3年 高木)

栄村の魅力を堪能 ～ええじゃん栄村～



前期期間中、「ええじゃん栄村」プロジェクトに所属する学生は、5月に「春の普請」、6月に「田植え祭り」、8月に「栄小学校児童との交流」と、様々な活動をこなし交流しました。「春の普請」は冬の間、河川に溜まった草木やゴミ等の清掃を行い、「田植え祭り」は、地元の子供たちを交えて田植えを行い、毎年恒例行事として実施しています。8月の「栄小学校児童との交流」は今回初の試みとして実施しました。栄小学校内に併設されている児童館へ赴き、15名の児童を相手にボール遊びやカードゲーム等を通じて親睦を深めました。

学生も子供たちの元気な姿に圧倒されましたが、純朴で素直な子供たちの笑顔に、普請や田植えとはまた一味違った形での栄村の新たな魅力を堪能することができました。今後も、「秋の普請」や「どうろく神」等、年中通しての交流が続きます。



学生の感想



今年も春の普請や田植え祭りなどで栄村の人と交流することができ、今年から入った新入生も積極的に参加してくれました！その他にも新たな試みとして栄村小学校の学童への参加も行いました。みんな子供たちとすぐに仲良くなり、一日中遊びました！みんなとても楽しそうにしていたので是非今後も行ってみたいです。（栄養3年 曾根原）



新しい場所で活動を広げる茶房「ひといき」



7月25日、ひといきプロジェクトは、茶房「ひといき」の活動を旧アンダグンテの店舗「信州みんなのこども食堂」の場所を借りて開催しました。洋食レストランとして使われていた店舗は、今までの公共施設とは異なり、プロジェクトが目指しているコミュニティ喫茶によく似た佇まいの施設です。当日は「ひといき」のマスターでもあり地域代表の日詰政男さんがカウンターの中に入りコーヒーを点て、学生たちは個々に訪れるなじみの方々にコーヒーを提供しながら、話に興じていました。今までのような会議室形態とは異なり、喫茶店風の形態のためか、テーブルごと身近な話題で盛り上がりました。場所が変わることで、参加した皆さんの話題も広がりました。学生も地域の方々も、今までとは異なった新たな面を見出し

ながら楽しいひと時を過ごしました。ひといきプロジェクトでは、これからもこのような空店舗を有効に活用しながら、地域の方々との新たな交流場所としてコミュニティ喫茶を運営していこうと意欲を燃やしています。

学生の感想



前期に開催された「ひといき」では、これまでの地域に密着した企画に加え、旧レストラン施設を利用した喫茶店風「ひといき」という新たな試みも行いました。地域の方々からは喜びや感謝の言葉を頂き、地域の温かさや親しみを感じました。改善点は多々ありましたが、参加された皆さんに楽しんで頂けた事が何よりの成功だと思いました。（観光3年 平泉）



プログラミングで自分を表現 CoderDojo 松本@松本大学



「CoderDojo」は、世界で展開されているプログラミング道場です。子どもたちがプログラミングを通して自分の作品を表現し、交流できる場になっています。参加する子どもたちを「ニンジャ」、サポートする人を「メンター」、主催者を「チャンピオン」という呼び方をします。チャンピオンの濱田さん、社会人メンターの宮下さん等に協力をいただきながら、学生がメンターとして関わっています。

毎月1回開催しており、毎回楽しみに参加してくれるお子さんや、初めて参加するお子さんもいます。子どもたちの発表時間も設け、様々な作品を見ることで子どもも大人も刺激になったり新しい交流が生まれたりしています。

また、「DojoCon Japan」という年に1回全国のCoderDojoが集まるイベントが奈良で行われ、濱田さんと一緒に学生も2人参加しました。子どもたちが作った作品の展示や、各地のメンバーとワークショップを行うなど、学びや交流が深められた機会となりました。

学生の感想



今年度は社会人メンターの方々や「ゆめ」の皆さんのおかげで、毎月CoderDojoを開催することができました。昨年とは違って変わって自由に子どもたちとプログラミングを楽しむことができ嬉しです。また今年は全国のCoderDojoが集まりサミットを開く「DojoCon」というイベントにも参加し、沢山の刺激を受けました。今後もCoderDojoを更に盛り上げていけたらと思います。

(教育4年 井内)

スマホ講座 大盛況

新村地区の高齢者向けに、「大学生が教えるやさしいスマホ講座」と題して8月から9月にかけて計5回スマホ講座を開催しました。学生が講



師となり、電話のかけ方や文字入力の仕方、LINEの使い方、インターネットの検索の仕方など、日常的に使用するものについて座学と実習を交えながら進めていきました。学生がサポートをしながら、一人ひとりのペースに合わせてわからない点を丁寧に教えていました。最後の回ではスマホで詐欺に遭わないために、というテーマで、スマホに届くことが多い詐欺の例を挙げながら話し、詐欺の模擬体験をしました。

全体を通して、参加者からは質問も多く飛び交ったり、家族の話をしたり撮った写真を見せていただいたりと、とても和やかな雰囲気でした。今回は夏休み期間の企画でしたが、定期的を開催したいという声もあり、今後の展開も期待されます。

学生の感想



スマホ講座では、スマホを使うことに慣れない高齢者の方を主として実施してきました。普段使い慣れている「アカウント」や「パスワード」などの難しい用語をどうわかりやすく伝えていくか大変苦労しました。スマホを使うことでこんなにも便利な生活ができることを知っていただきました。また、スマホを利用した詐欺などにも合わないよう、どうすればよいかなどの対策をお伝えすることができました。

(観光2年 鍵田)





寺子屋



～大学生と子どもの交流～

寺子屋は、地域の子どもたちに向け毎月居場所づくりを行っています。学習の時間と遊びや体験の時間を組み、学生が見守ったり一緒に遊んだりしながら、交流を深めています。毎月、季節に合わせた工作や調理など、子どもたちが楽しんでくれる内容を学生が企画しています。開催が定着してきて、毎回来てくれる子どもも増えてきました。最近では地域で同じように子どもの居場所づくりに取り組む方とも連携し、互いの活動に参加しながら地域の方々や子どもたちとの繋がりも広がっています。

参加する子どもからは「来月も絶対行くね!」とってもらえたり、地域の子ども食堂で顔を合わせた際に学生の顔を覚えており「この前の寺子屋すごく楽しかった!」ということも言われたりしたそうです。寺子屋が子どもたちにとって一つの居場所になっていると感じられました。



学生の感想

コロナ禍の状況も落ち着き、制限が緩和され、小学生と一緒にやりたいことを自由に企画できるようになってきました。参加人数も増え、毎回笑顔溢れる楽しい時間を過ごしています! この寺子屋が、子どもたちにとって居場所の一つとなり、楽しい経験・体験をしてもらえるよう、今後も学生一同頑張ります。(観光2年 中垣)



☆ 棚田をたくさんの七夕で飾りました! ☆

8月の旧暦の七夕の日、四賀地区保福寺の棚田のあぜ道に三十本の七夕が飾られました。

四賀地区の棚田の再生に取り組む「かまくらや」さんや「石井味噌」さんと共に、『ゆめ』の学生は、四賀地区の棚田で昔から行われていた七夕の復活に取り組みました。8月6日、学生たちは、学内で個々の学生が願いを書いた短冊を集めて持参し、棚田に立てた七夕に飾る作業を行いました。四賀の谷間の涼風に揺れる七夕は、棚田に新たな癒しの風景を作り出しました。地域の忘れられた無形の文化を復活するロマンを味わいながら、『ゆめ』の学生は心地よい半日を過ごすことができました。



学生の感想

四賀地区の地域の方々と共に短冊の飾り付け作業をするなかで、七夕に込める想いや地域行事の大切さを感じることができました。棚田にたくさんの七夕飾りが並ぶ風景は、自然豊かな土地ならではの綺麗さがありました。今後も棚田に関わる活動に積極的に参加していきたいと思いました。(観光4年 小林)





地域と大学生が協力した 『高校生合同販売 第10回 デパートゆにっと』



夏の恒例イベント「高校生合同販売デパートゆにっと大売出し」が、8月26日～27日に、市内井上デパート本店で開催されました。今年も県内各地の商業高校6校が集合し、それぞれの地域の資源を活用した商品を販売しました。この取り組みには、本学の支援会「ゆにまる」が継続的に取り組んでいます。今年も「ゆにまる」のメンバーは、「株式会社井上」の井上博文さんの協力のもと、「カレーの名店シリーズ」の販売を、工夫を凝らしながら行いました。また、新たな企画として、「ゆめ」のひといきプロジェクトのメンバーが参加し、「ひと

き・ゆにまる喫茶」と名付けたイトインコーナを会場に設けました。特に2日目には、市内の人気カレー食堂、「Doon食堂印度山」さんに出店いただき、イトイン会場を盛り上げていただきました。また「茶房ひといき」に関わる地域の方々にもお手伝いいただきました。2日間の大売出しは、高校生や地域の方々、大学生が皆で協力した地域イベントとして運営されることで多くのお客様が訪れ成功裏に終了しました。



学生の感想



8月の26日・27日に井上百貨店で開催されたデパートゆにっとでは松本のオリジナルカレーの販売と朝日村の宣伝を行いました。3人だけの販売でしたが、2日間で210個売り上げることができ、レトルトカレーの魅力をたくさんの人に知ってもらえるように販売することができました。

(総経1年 演)

石芝祭り

リーダー始め大勢の力が結集して、祭りを盛り上げ地域の皆さんとの交流になり久しぶりに大きな学びの活動となりました。学生代表の観光ホスピタリティ学科1年小股祐希君が感想を寄せてくれました。

「8月27日に行われた石芝祭りに、大学として4年ぶりに参加しました。当日は1年生19名が参加し、縁日のお手伝い、松本大学としての催し物を行い、大盛況の1日になりました。実行委員会からもたくさんのお礼の言葉を頂き、若い力の存在意義を非常に感じました。活動をこの1年で終わらせることなく、来年以降も続けていきたいと強く感じた1日になりました。」



編集後記

最近観た映画のセリフで、「誰かを幸せにすれば自分も幸せになれる」という言葉がありました。この言葉が胸に響いて、色々と考えさせられ、『ゆめ』の学生の姿も頭に浮かびました。自分のためだけでなく、誰かのことを考えて行動すること。誰かが喜ぶ顔や、かけてもらった言葉で充実感や幸福感を得られることがあります。自分もこの言葉を心に留めたいと思うと同時に、学生たちも周りの人との繋がりをこれからも大切にしてもらえたら嬉しいと思います。(中島)

お問い合わせ

松本大学 地域づくり考房『ゆめ』

〒390-1295 長野県松本市新村2095-1 松本大学内7号館2階

開館日時: 月～金 10:00～18:00

TEL: 0263-48-7213 FAX: 0263-48-7216

E-mail: community@t.matsu.ac.jp



<https://www.matsumoto-u.ac.jp/yume/>

